

西オーストラリア州(WA州)大麦圃場  
(収穫直前、2019年11月13日撮影)

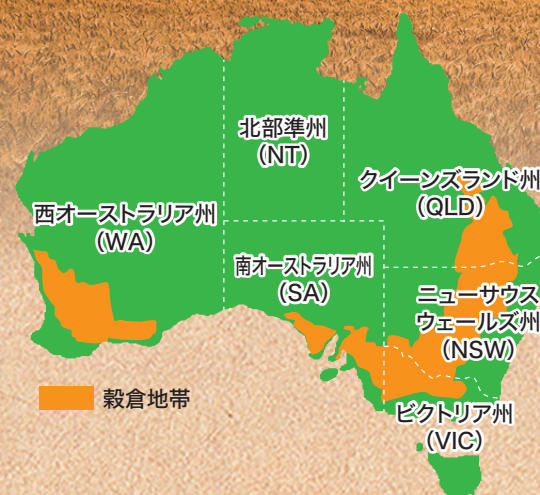


図1. 穀倉地帯地図  
広大な穀倉地帯をもつ豪州では、西オーストラリア(WA)州が、生産量の約4割を占める

# 全農シンガポール事務所／全農インターナショナルアジア(株) 圧倒的スケールの農業大国 豪州の飼料原料情勢と肉牛生産情勢

全農シンガポール事務所は、シンガポールを中心に東南アジアへの日本産農畜産物の輸出版売市場の開拓に加えて、豪州の飼料原料や畜産に関する情報収集を行っています。今回は、豪州の飼料原料と肉牛生産の情勢についてご紹介します。

## 豪州飼料原料情勢

豪州では主に南部沿岸部を中心に穀物が生産され(図1)、最大の生産を誇るのは西オーストラリア(WA)州で、生産量のうち約4割を占めます。豪州の穀物生産の歴史は干ばつとの戦いでもあり、WA州では4〜6月が作付期間、10〜12月が収穫期間にあたります。降雨状況により生産量が大きく増減する事が特徴です(図2)。灌漑設備を備える農家はなく、天然の降雨が生産の生命線となっています。また、水分を保持しにくい砂状の土壌も多く、同品種を生産した場合でも他国に比べて収量が落ちる事が懸念材料です。例えば同じ大麦の品種を作付しても欧州では7t/haの単収が得られる一方、WA州では3t/haという事もあります(RGT PLANET種、Seed Force社情報)。

従って農家は収益向上のために大規模化を図る傾向にあり、同州の1農家あたりの平均有効耕作面積は4500haです(北海道の経営耕地面積平均は29ha)。

豪州では年間約900万tの大麦を生産するものの、国内需要は限定的で輸出用の需要を取り込む事が欠かせません。特に飼料用に加え、近年は麦芽用の大麦需要が旺盛な中国向け輸出に力を入れており、大麦の6割以上を中国へ輸出する状況です(図3)。

全農は、肉牛飼料に欠かせない大麦をはじめとして、小麦やえん麦などの飼料原料を安定供給するため、同じ農協組織であるCBH農協(WA州・豪州最大の農協)と1971年より約50年間にわたり連携して国際農協間取引を行っています。

## 豪州肉牛生産情勢

豪州では広大な牧草地での放牧を中心としたグラスフェッドの牛が主流でしたが、近年穀物肥育牛の生産が増加傾向です。消費も穀物肥育牛を好む対日輸出のみならず、豪州国内や他国向け輸出も積極的です。

穀物肥育牛の中でも順調に生産を伸ばしているのが、豪州Wagyuです。豪州Wagyu協会によれば、2014年に17万頭だったWagyuの種付け頭数は18年には37万頭まで増加し、22年には76万頭まで増加すると予測されています。Wagyuの定義は、「和牛遺伝子の割合が50%以上のもの」(表)であれば血統登録が可能という事など、日本の和牛とは大きく異なるものですが、海外市場へ浸透し始めています。筆者の居るシンガポールのスーパーマーケットや、豪州国内のステーキ店などでも取り扱いを目にします。

豪州のWagyuの生産サイクルは、日本の農畜産業振興機構(a i i c)が調査を行っています。

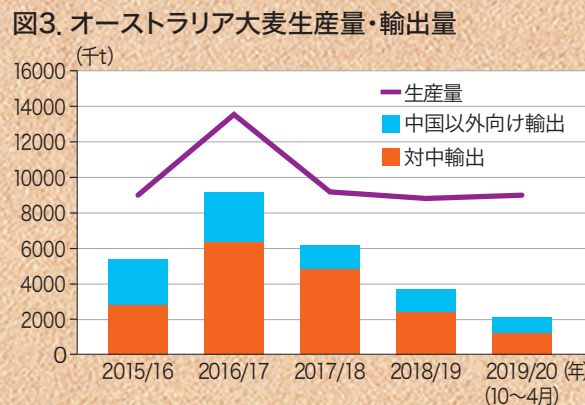
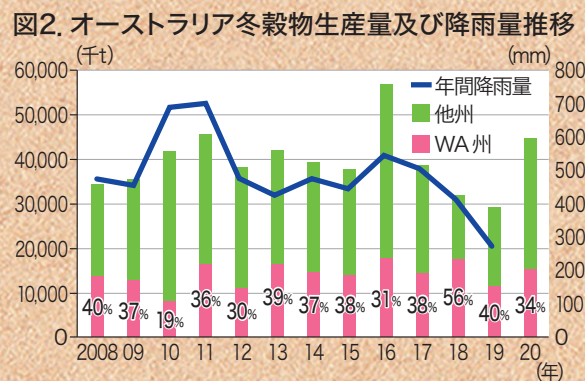


表. オーストラリアWagyuの定義

| カテゴリー       | 和牛遺伝子の割合 | 定義                                       |
|-------------|----------|------------------------------------------|
| フルブラッド和牛    | 100%     | 日本の和牛を祖先にもつフルブラッド和牛であり、祖先に他品種と交配の形跡がないもの |
| ピュアブレッド和牛F4 | >93%     | 和牛遺伝子の割合が93%を超えるもの                       |
| クロスブレッド和牛F3 | >87%     | 同87%を超えるもの                               |
| クロスブレッド和牛F2 | ≥75%     | 同75%以上のもの                                |
| クロスブレッド和牛F1 | ≥50%     | 同50%以上のもの                                |

写真. SBF CENTER BUILDING  
(全農シンガポール事務所／全農インターナショナルアジア(株))



全農シンガポール事務所は、2013年11月に東南アジア地域への日本産農畜産物の輸出の普及及び促進を目的として設立。15年1月にシンガポール現地法人の全農インターナショナルアジア(株)を設立し、シンガポール市場への農産物販売を強化している。また、17年4月に全農パース事務所の業務を統合し、豪州の飼料原料調達にかかる業務も管轄する。

## 新型コロナウイルスの影響

4月に豪州政府が、新型コロナウイルスに対する中国当局の初期対応などについて、WHO(世界保健機関)に独立的に検証する作業を求めた事などから、豪州・中国間の関係が悪化しています。

中国は、5月19日から豪州産大麦に80.5%の追加関税を決定。5月下旬以降には、豪州産牛肉の対中輸出シェア35%を占める大手4社からの輸入を停止しました。豪州農業資源経済科学局(ABARES)は、20年の対中牛肉輸出見通しを前年比30%減に下方修正し、中国一辺倒に依存してきた戦略の見直しを迫られています。